

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		鳥飼東学童デイホーム遊育園				公表日	2025 年 4 月 23 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	・子ども達がゆったりと活動できるスペースが確保されている。 ・カーテンの仕切りを使って活動の幅を広げている。	・発達年齢が高い事業所の為、部屋に圧迫感を感じる。声量大きい児童も多いため、もう一部屋あると子どもたちがストレスなく過ごせる。 ・最低限の広さはあるが、2つ部屋があると活動がしやすい時がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	・子どもの状態に合わせて、抽出したり小集団で遊べるように設定をしている。	・もう1人2人職員がいれば支援の幅が広がると感じています。 ・利用人数にもよるが、1人あたりの支援の質に偏りが生じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	子どもの発達段階や特性に合わせた教材やおもちゃが用意されている。 ケガに繋がる物品はなるべく少なくし、片付ける場所を分かりやすくしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0		活動に合わせた空間にはなっているが、お菓子を食べた後は多少汚い。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	宿題をする場合など机に仕切りを置き集中しやすい環境を確保している。静養室が用意されておりあんしんできるスペースが確保されている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	イベント毎にPDCAを作成して次につなげている、また全職員に共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	アンケートを実施して把握する機会を設けている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	本誌のようなアンケートを実施している。 上司との面談や業務改善アンケートがある。 相談しやすい環境だと思う。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	法人内でのアンケートや業務内容の評価を行っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	あす育の実施 法人内研修や外部研修の充実		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	リタリコというサイトを使用して公表を行っている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	支援計画書を作成する前に本児と話をして直接ニーズの聞き取りを行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	原本を基に事業所内の職員で話し合っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	子ども一人ひとりに合わせた個別支援計画書が作成され、保護者にもしっかり説明している。 なるべく一日の支援が始まる前に利用者の目標を共有している。	支援時間が始まる前に共有を行っているが、支援の手が回らない、児童によって偏りが生じる時がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたツールは用いていないが観測評価により状況の把握に努めている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	ガイドラインに沿った項目で目標を設定している。 ガイドラインや職員、相談支援事業所、保護者、本人との会話や会議を重ね設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	チーム活動プログラムを検討し子供の意見も反映している。 子どもの目標に合わせた活動を話し合って立案している。 月案、日々のプログラムを話し合う会議を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	季節や行事に合わせて様々な活動プログラムを提供している。その時の利用者のニーズや状況に合わせた活動を行っている。	他の事業所でどのようなプログラムが行われているか調べたり、比べたり、学ぶ必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	子どもの持っている課題によってグループを分けて活動する時がある。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	ホワイトボードを活用している。職員の導線に設置し一目で目標や支援が思い出せるように工夫している。	毎回打ち合わせできるように努力はしているが、できない日もある。時間の確保が難しい。 時間がなくできない時がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	毎回するには退勤時間もあり、難しい。次の日に持ち越し、対応している。	毎回するには退勤時間もあり、難しい。その日に行うのであれば勤務時間の変更が必要か。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	パソコンで議事録を取っている。 会議を行っている。 事業所間で会議を行い意見の交換や連携をおこなっている。	毎朝前日のきろくを心掛けているが徹底はできていない。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	職員で話し合いをしっかりと行っている。 期間等適切かその都度振り返っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	月間予定で基本活動の要素を持った活動を決めている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	子どもに活動内容を選んでいただいたり、自分の意見を言える機会を設けている。 できるだけ無理強いせず自己選択を尊重視して支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	現場で直接かかわっている人が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	クリニックにすぐにかかれる場所にある。 相談支援事業所経由で学校とも連携しやすい体制になっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	保護者からの情報になっている。 送迎の遅れやリアルタイムでのトラブルがあった際は学校に連絡し、綿密に連携を図っている。	保護者と学校でやり取りを行い、保護者から事業所に連絡がいくようになっていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	特に同じ法人内の児童であれば情報共有は密に行われている。サービス担当者会議など行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	同じ法人内であれば行っている。	外部に移行される方の連携は不十分に感じる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	0	研修や情報共有を行っている。 相談支援事業所が中心となって、多数事業所が集まり研修を受けることがある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	地域の児童クラブとの交流を設けている。 同じ法人内の学童交流等頻繁に行っている。 公園活動の際も、地域の子どもと交流する場面は多い。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	アセスメントや送迎時に共有している。 電話やLINEを活用している。	お仕事で忙しい保護者と連絡が取りづらい時がある為、共有が難しい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	デイカフェ等を通して保護者同士の交流できる機会は設けている。	ペアレントトレーニングとして、家族が参加できる研修は行っていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に行っている。 支援プログラムについてはしっかり公表し、保護者からの問い合わせがあった際は、全職員が説明できるように共有している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	子どもとの面談や会議を通して行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	個別支援計画書作成前の面談で説明は行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者とのアセスメントの際に並行して行っている。 送迎時等、保護者と対面する際は答えている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	0	デイカフェ等を通して保護者同士の交流できる機会は設けている。	兄弟が交流できる場は設定したことがない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	上司や相談支援事業所に報告、相談を行っている。迅速に対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	YouTubeを活用している。	Instagramを活用し発信予定。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	留意している。 持ち出す書類に児童の名前の記載の有無など確認している。	送迎時に使用する、リストの持ち出しに気を付ける。車外には持ち出さない等紛失リスクを最小限に抑える。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	一人一人に合わせた配慮を行っている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	夏祭りイベント等交流する機会が数回ある。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	年に数回訓練を行っている。 訓練を行った際は保護者への周知を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	年間予定を立てている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時に確認するとともに、更新があった際は職員間での情報共有を行っている。 てんかんについて全職員、本を熟読している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	給食室に共有し、アレルギー除去食を提供している。 クッキングイベント等で使用する材料の確認を保護者さんで行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	研修や訓練を行っている。 AEDの使用方法などの研修があった。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	安全計画を作成し、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットを同法人内での委員会に共有し再発防止や類似件が発生しないように努め、マニュアルなどの更新に努めている。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止委員会の設置を行っている。 全職員が虐待に値する行為かどうかのチェックリストを使用し、防止に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	保護者や児童の了承を得たうえで、対応している。	